

科 目 名

**近代建築史**  
History of Modern  
Architecture

(昼間) 2年 後期 2単位 選択  
(夜間) 2年 後期 2単位 選択

内 丸 恵 一

概 要

現代建築は、主に西ヨーロッパで起こったモダニズムの建築を基礎としながら、その模倣と変容、およびそれを乗り越えようとする試みの歴史であるといえる。多様な建築の形態と思想が氾濫する現在、近代建築の歴史の変遷を理解することは、建築の設計を指向する学生にとっては、自らの建築を考えるための必須の基盤となる。本講義は、19世紀中頃以降の近代建築の胎動期、およびその成立から成熟・変容に至る歴史の変遷を、ヨーロッパとアメリカを中心に講ずる。

学習目標

- (1) 近代建築史の大きな流れを理解すること。
- (2) 基本的知っておかなければならない歴史的建築物について理解すること。
- (3) 錯綜する近・現代の社会と建築との関わりを歴史的に理解し、現代社会の中での自らの建築を考えるための基礎となること。
- (4) 講義中に行う、幾つかの代表的な歴史的建築物の空間の意味の読み取り作業を、自らの建築を設計するためのバックボーンとして理解すること。

授業計画

テ ー マ	内 容
① 全体の概説	近代建築史の全体的な見取図
② 産業革命と建築技術	産業革命を背景とした社会変化と新しい建築の要請
③ 19世紀末の造形運動	アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーボー、ウィーン分離派
④ 近代建築への胎動	ドイツ工作連盟、ガルニエとペレ、シカゴ派とフランク・ロイド・ライト
⑤ 20世紀初頭の前衛的運動	ロシア構成主義、デ・ステイル、未来派
⑥ 表現主義の建築	ドイツ表現主義、アムステルダム派、日本の表現主義
⑦ 近代建築の成立1	ドイツ工作連盟とバウハウス
⑧ 近代建築の成立2	ミース・ファン・デル・ローエとル・コルビュジェ
⑨ 近代建築運動の拡がり	CIAMの活動、北欧・西欧・アメリカ・日本の近代建築運動
⑩ 近代建築の成熟と変容1	ミースとル・コルビュジェの活動
⑪ 近代建築の成熟と変容2	フランク・ロイド・ライトとアメリカの展開
⑫ 近代建築の成熟と変容3	ルイス・カーンの建築と思想
⑬ 近代建築への懐疑1	地域や歴史に根ざす建築
⑭ 近代建築への懐疑2	ポスト・モダニズム
⑮ 定期試験	

授業方法

配布プリントに沿って、適宜スライドやビデオを使いながら授業を行う。

学習到達度の評価

- 1) 授業中に学生からの質問を受け、必要な場合は講義内容に関する補足説明を行う。
- 2) 受講生全員に配布プリントを筆写させ、適宜ノートを回収する。チェックして理解不足と考えられる学生には、ノートの返却時に指導する。
- 3) 試験終了後に定期試験の結果とともに講評を記した文書を掲示する。

評価方法

講義中に行うノート提出により試験の受験資格を得るものとし、定期試験にて判定する。

教科書・教材

日本建築学会 編「近代建築史図集」彰国社  
配布プリント

参 考 書

森田慶一 著「西洋建築史入門」東海大学出版会  
石田潤一郎、中川 理 編「近代建築史」昭和堂  
熊倉洋介 他「西洋建築様式史」美術出版社

履修上の注意

ただ講義で教えられたことを理解するだけでなく、西洋の建築や美術、歴史に興味をもって取り組んで欲しい。そうすれば、日常生活の中からもさまざまな情報や学ぶ機会が入ってくるはずである。

オフィスアワー

講義終了後1時間、研究室にて講義内容に関する質問を受付ける。

「建築計画コース・建築構造コース」における位置づけ	必修／選択の別	学習保証時間
本科目は、シラバスに記載されている建築学科の学習・教育目標の主としてC1に関連する。	建築計画コースのみ必修	22.5時間